

HEADLINE

表

1. 夏が待っている。～夏休みまでに取り組むこと～
2. 模試の活用法

裏

3. 高等予備校紹介
4. 今回のがんばる生徒紹介

編集後記

Topic1

夏が待っている。～夏休みまでに取り組むこと～

ゴールデンウィーク（春の大型連休）の反省は？ ポイントは2つ。

- ① 課題にきちんと取り組めたか？
- ② 期間中バランスよく学習できたか？

この2項目の反省をしっかりと、夏休みまでにしっかりとした学習習慣を身に付けましょう。7月に定期試験がある高校も多いはず。毎日、毎日、コツコツ、これが重要です。

夏休み前に考える、そして行動へ。特に、1, 2年生。

■なぜ、勉強しなければならないのか？■

中学の頃は、あまり考えもしなかったことです。それはゆとりがあったから。ゆとりがなくなると、こんなことを考えるようになります。つまり、勉強するのが苦痛に思えてくるのです。そして、残念なことに、万人に正しいといえる解答がない疑問でもあります。

難しい話ですが、この問題は解決すべき問題ではなく、解消すべき問題なのです。

解消の方法は2通り、①避けて通る。つまり「勉強しない」という選択をする。②一旦、疑問は気にせず、行動する。勉強する。どちらかを選択するといいと思います。私たち、塾の講師に限らず、周囲の大人たちは、当然②を選択してほしいと強く思っています。願っているという方が正しいかもしれません。それはなぜかという・・・「勉強しておけばよかった。」という後悔を経験しているからです。文理の先生に勉強しておけばよかったという失敗談を聞いてください。きっと「普段は偉そうに授業しているのに、アホなことをしていたんだな。」と思うような話を聞くことができるはずです。

行動するためには、動機が必要です。

オープンキャンパスでなくても、大学見学はできます。憧れの大学を見つけることができれば、とても大きな収穫です。「〇〇大学に行きたい！」という動機はとても大きなものです。もちろん、将来の目標がある人は「なぜ、勉強しなければならないのか？」などとは考えないでしょう。しかし、今後も悩まないわけではありません。やはり、大学見学はおすすめです。

■夏休みは長いが、自由になる時間は思っている以上に短い。■

夏休み期間は約1か月。しかし、学校の課外や補講、部活動などが大半を占め、あっという間に過ぎていきます。だからこそ、この2か月間の時間の使い方、勉強の仕方がとても重要です。何をすればよいか？それは、弱点を見つけることと、その解決法を用意することです。弱点とは「何度勉強してもなかなか身に付かない科目や、分野」のことで、取り組んでみるとそれほど多くないことがわかります。本当に弱点かどうか、文理の担当の先生に相談してください。弱点の克服には問題集を使うことが有効です。時間の使い方について考える、これも夏休み前に考えてほしい項目です。

夏の勝負はもう始まっています！準備でライバルに差をつけましょう！

Topic2

模試の活用法～進研模試の強みは、その受験者数にある～

進研模試で弱点は見えるのか？

結論、見えます。弱点だけは見えるものです。つまり、理解度が不足している点を見つける材料であるということです。逆に模試でできたとしても、出題分野を理解しているという判断は危険です。全国で40万人もの受験者のいる模試は他にはありません。この受験者数こそ、進研模試の重要なポイントです。問題が標準的で、データが生きる模試なのです。

だからこそ、以下の点に注意して模試には臨んでください。

準備→模試の度に出題範囲を復習することはあまりおすすめできません。日常の学習の定着度を測るという姿勢がよいでしょう。

受験→なんとなく解いてしまうと、たとえ正解していても得られるものではありません。しっかり考えて解く、この姿勢は崩してはいけません。

受験後→ここで差がつかます。しっかりとした復習、問題の解きなおしをして、ポイントを整理しましょう。必ず自己採点はしましょう。

3年生の皆さんへ。

今後、9月から12月までは全国模試が1か月に2回程度実施されます。気力も体力も消耗するので、早い段階から意識して模試を受けるように心掛けてください。雑に受けてはいけません。アドバイスをしますので、模試の問題、自己採点結果、成績表は文理に持って来てください。

今回紹介する校舎は、**御殿場校舎**です。そうです、あのアウトレットのある御殿場です！

御殿場校舎の歴史は長く、文理学院が静岡に開校した1番目の校舎で、高等予備校としても4番目の校舎です。

現在は、若林校舎長(数学)、高塚先生・高村先生(英語)、芳賀先生・持丸先生(数学)、神田先生・風見先生(国語)、今井先生・池田先生(理科)、石原先生(社会)のフルラインナップで生徒指導にあたっています。(山梨からたくさんの先生に来てもらっています。)

御殿場校舎の特徴は、何といても生徒同士の距離の近さです。進路や勉強法について、先輩が直接後輩にアドバイスすることは日常の風景で、生徒同士だから共感できること、聞くことができることも多く、疑問や不安を解消する良い機会になっています。

特に、卒業してからも文理学院を我が家のように思ってくれる生徒が多く(これは、どの地区でも見られますが、御殿場地区は

小中学部も含め、この傾向が特に強い地区です)、その要となっているのが、14年間御殿場に勤務している**高塚先生**です。御殿場校舎の生徒のモチベーターとしてがんばる、ゆるキャラっぽい先生です。一見、目を開いているかどうかかわからない、いつも笑顔で、怒るときもあるそうですが、表情からは判断できない。一時期はダイエットを真剣に取り組んでいましたが…。そんなとにかく心休まる先生です。閑話休題。この高塚先生の声掛けにより、御殿場校舎は講演会が多く開かれます。

この講演会というのは、1~2か月に1回程度の頻度で開かれる在校生のための会です。内容は、各回でテーマを決めて、そのテーマに興味のある生徒(在校生)が参加する、というスタイル。今年もすでに2回開会し、前回は「学校の先生になりたい人のための大学進学」と題して、静岡大学教育学部を卒業し、現在教壇に立っている文理の卒業生に、在校生へ向けて直接話をしてもらいました。私たち講師も授業の合間や、生徒を出迎えるとき、送り出すときなどの時間で話をしますが、数か月、数年前まで文理に通っていた先輩からの話の説得力にはかないません。講演会の毎回の参加者は10~15名程度ですが、対象がピンポイントなので、参加してくれた在校生も、講演してくれた卒業生もとても充実した会になっています。まさに、先輩から後輩へと流れる歴史を感じる校舎、それが御殿場校舎です。

**高塚先生、この歴史を紡ぐために健康には十分気を付けて。
現在文理に通っていただいている生徒の皆さん、先輩の声が聴きたくなったら、担当の先生にお願いしてみてください。喜んで対応してくれる先輩が文理にはたくさんいます。そして皆さんも、そういう先輩になってください。**

今回ご紹介の生徒は、御殿場校舎に通う 2年生 T. T くんです。

卓球部員のT. Tくんは、学校から家までの片道28Kmの距離を雨の日も風の日も通い続けています。この文理だよりを手にした生徒さんの中には、私は片道40Km通っています！という生徒さんもあるかとは思いますが、ぜひ、次回のがんばる生徒に立候補してください。待っています。このコーナーは「文理にはいろんな校舎で、がんばっている生徒がたくさんいるんだな。」ということ伝えて、皆でがんばろう！という気持ちになってもらうことがコンセプトですから。

T. Tくんの一日は早く、朝5:00に起床。遅くとも家を6:30には出ます。そんな生活の中にあって、地域の一番高に通うT. Tくんは、勉強も全力です。朝は起きてから家を出るまでの1時間30分のうち、多い日は1時間近く勉強します。部活動を終えて家に帰ると夜8:00頃になってしまうため、学校から直接文理の自習室へやって来ます。そうして時間をやりくりしながら、夜11:00まで自習室にこもり勉強。疲れることもあるのですが、このサイクルが確立できているのです。この行動の原動力は何ですか？という問いかけに「今しか時間がないから」。生徒の皆さんは当然ですが、私たち指導者にも突き刺さるコメントです。

自立した学習ができるように、と文理学院ではあの手、この手を使って生徒を指導します。T. Tくんのようにサイクルがうまくいかない生徒さんも多いでしょう。そんな人こそ、文理を使いましょう、使ってください。まずは自習室から！

やる気に満ちている人は文理へ、やる気が今ひとつの人も文理へ。文理の自習室には、身に付く何か必ずあります。

■ブログには各校舎の情報満載！スケジュール、講師のつぶやき、自分勝手なメッセージ…

校舎ブログをホームページから、チェックしてください！

■第一志望合格のために、スタッフ一同全力で生徒を応援します。悩みは一人で抱え込もうとせず、いつでも、何でも相談してください(生徒の皆さんも、保護者様も)。

夏期講習生募集開始！

無料体験授業受付中。お友達を紹介してください！

編集後記

早いものでもう6月。夏休みに勝負をしたければ、7月までをどのように過ごすか？が大きなテーマ。悩んでいるより、先ず動け。私もよく言われました、今も言われます。人間この齢になると、あまり成長しないのかもしれない。そんなはずがありません。こんなことを繰り返しながら齢を取るのでしょうか。生徒に「勉強しよう」と言うのは、もしかしたら、若い頃大して努力をしなかった自分への言い訳なのかもしれない、と考え始めた今日この頃です。

【い】